

す い た み な み し ょ う が っ こ う

令和5年
(2023年)
全国学テ号

吹田南小学校だより

学校教育目標 「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

(1) 国語

■ 概要

平均正答率については全国値とほぼ同じであり、大阪府の値をやや上回りました。また、単純に比較はできませんが、正答率は、昨年度をやや上回りました。



■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

【話すこと・聞くこと】

この領域では全国値をやや上回りました。この領域の問題は、「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」、「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」等の問題です。ここ数年、学校教育目標を「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」として、「学び合い」による授業方法に取り組んできた成果が表れていると考えます。

【書くこと】

この領域では全国値とほぼ同じでした。この領域の問題は、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」等の問題です。目的や意図に応じて、資料を用いて、自分の考えが伝わるように書き表すというのは難しい作業です。「学び合い」に加え、令和4年度から「書く」ことにも取り組んできた成果が表れていると考えます。

【読むこと】

この領域では全国値をやや下回りました。この領域の問題は、「目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約する」、「目的に応じて、文章と図表を結びつけるなどして必要な情報を見つける」、「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる」等の問題です。今後も読む目的を明確にし、必要な情報を見つけたり要約したりする活動が必要です。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

この事項では全国値をやや上回りました。この事項の問題は、「文章の種類とその特徴について理解している」、「日常よく使われる敬語を理解している」、「(送り仮名に注意して)漢字を文の中で正しく使う」等の問題です。

【情報の扱い方に関する事項】

この事項では全国値をやや上回りました。この事項の問題は、「原因と結果など情報と情報の関係について理解している」、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使える」等の問題です。情報の扱いは、国語だけではなく様々な教科を通して培います。読書によって様々な文章に触れることも大切です。

■ 国語科における分析結果と課題について

「主体的・対話的な学び」を実現していくためには、あらゆるツールを効果的に活用する力が問われてきます。そこで、「目的に応じて文章を要約する」、「自分の考えが伝わるように書き表す」、「目的に応じて、文章と図表を結びつけるなどして必要な情報を見つける」等を、伸ばしていきたいです。そのためには、国語の学習だけではなく、日常的に、他の教科や本や新聞等を活用して、読み手や書き手の考えについて語り合うことや書くことが大切だと考えます。この活動は、ご家庭でも、保護者と共に取り組むことができます。

(2) 算数

■ 概要

平均正答率については全国値、大阪府の値に比べ、ともに大きく上回る結果となりました。また、単純に比較はできませんが、正答率は、昨年度と比べてほぼ同じでした。

■ 各領域における成果と課題、指導改善のポイント

【数と計算】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、「一の位が0の二つの2位数の乗法の計算」、「() や加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る」、「日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて求め方と答えを式や言葉で記述し、その結果から条件に合うか判断する」、「加法と乗法の混合した整数の計算や分配法則を用いたりする」、「2位数÷1位数の筆算を、図を基に各段階の商の意味を考える」、「『以上』の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る」等の問題です。よく理解できていると思われます。

【図形】

この領域では全国値をやや上回りました。この領域の問題は、「台形・正方形・正三角形の意味や性質を理解している」、「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」等の問題です。他の領域と比べるとやや上回るにとどまっていますが、概ね理解できていると思われます。

【変化と関係】

この領域では全国値を上回りました。この領域の問題は、伴って変わる二つの数量について「①表から変化の特徴を読み取り、表を完成する」、「②比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いる」、「③比例の関係にあることを用いて知りたい数量の求め方と答えを式や言葉で記述する」、また「百分率で表された割合について理解する」等の問題です。よく理解できていると思われます。



【データの活用】

この領域のみ、全国値とほぼ同じでした。この領域の問題は、「棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数で記述する」「二次元の表から、条件に合う数を読み取る」等の問題です。他の領域と比べるとほぼ同じにとどまっていますが、概ね理解できていると思われます。

■ 算数科における分析結果と課題について

算数の多くの領域で全国値を上回り、よく理解できていますが、算数においても、今後、「主体的・対話的な学び」を実現していくためには、あらゆるツールを効果的に活用する力が問われてきます。そこで、「求められている解答の仕方を読み解くこと」、「公式を覚えるだけではなく、求め方を式や言葉を用いて記述すること」などを、今後伸ばしていきたいです。そのためには、設問に求められる条件を見つけたり、求め方を文に書いたりすることが大切です。「どうやって解いたの?」「なぜそう考えたの?」等、子どもに説明させる問いかけを意識的に使うことは、ご家庭でも、保護者と共に取り組むことができます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向（児童質問紙調査について）

特徴的なこととして、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか?」、「学校に行くのは楽しいですか?」、「友達関係に満足していますか?」という質問では、全国値を上回りました。子どもたちが、学校教育目標を理解して、良好な友達関係を築いて、充実した小学校生活を送っていることがうかがえます。

また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか?」、「人が困っているときは、進んで助けていますか?」という質問には、肯定的回答が全国値を大きく上回っています。正しい倫理観が育っていることがうかがえます。

更に、「自分にはよいところがあると思いますか?」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか?」、「将来の夢や目標を持っていますか?」という質問でも、肯定的回答が全国値

を上回りました。これまで取り組んできた自己肯定感や自己有用感が育ちつつあるので、卒業、中学校への進学に向けてキャリア教育を充実させていきます。

3. 今後の取り組み

子どもたちの学力を定点測定するのがこの調査「全国学力・学習状況調査」の目的ですが、その「測定する学力そのもの」に対する考え方が変化してきています。

現在実施されている学習指導要領では、「何を知っているか」から「何ができるようになるか」を重視しています。計算力や暗記力から実践的な場面で使える知識やスキルに学力の柱が移ったことを示しています。例えば、「他者に伝えるときにどのように伝えるか」とか「資料をどのように活用するか」というような実践的な場面で知識をどのように活用できるかというところに重点が置かれています。このことは、国語・算数に限らず、理科や社会等すべての教科についても同じことが言えます。

本校では、ここ数年、学校教育目標を「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」として、「学び合い」による授業方法に取り組んでいます。主体的で対話的な深い学びの実現をめざし、他者とのかかわりの中で学力や探究心を育む授業研究をしていますが、今後もこの方向で研究、授業改善を行っていきます。また、令和4年度から令和5年度は、令和3年度の結果に基づいて、2年計画で「書くこと」にも取り組んでおります。そして、今年度も、全教員で令和5年度全国学力・学習状況調査の問題を解き、本校の結果から課題と改善の手立てを検討する研修を持ちました。「多様な問題文を読解する力」や、「条件に合わせてまとめる力」等については、全学年で意識して取り組むことを確認しました。

4. ご家庭にご協力いただきたいこと

最後に、毎年お願いしていることではありますが、「活用する能力」を育てるために、ご家庭でもできることをお知らせします。

例えば、学校で習った学習や、読んでいる本に対し「その学習は、その物語は、どんな内容なの?」と要旨やあらすじを説明してもらうことや「学習をして、その物語を読んでどう思った?」と聞いてもらうことで、子どもの思考力を高めていくことにつながります。学校や放課後の友達との遊びの中であった出来事や、新聞やテレビのニュース、ドラマやアニメを題材にして、家庭で会話をたくさんしていただくことも有効です。

また、日常生活の中で、物事の様子や答えの求め方を自分の言葉で説明する機会を作っていただくことも、子どもの思考力を育てます。まとめたり、順序立てて説明したりすることが苦手な子どもには、スモールステップとして、ヒントとなる言葉をいくつか示し、言葉をつなげて文章にするとところから始めていただければいいと思います。

更に、家庭生活において、「就寝・起床時刻を守る」「家庭学習の時刻や時間を決めて取り組む」「携帯電話・スマホやコンピュータの使い方について、家庭で約束したことを守る」等、規則正しく生活させることや、「地域の行事に参加する」「新しいことにチャレンジする」等、いろいろな人やものに触れ合う機会を持たせることも勧めていただければ、学力向上に繋がります。これまで同様、ご協力よろしく願いいたします。